

教えて!


市立病院

vol.51

市立病院総務課経営企画室 ☎ 24-4540

テーマ

鏡視下手術を積極的に導入し、全国表彰



今月のドクター
外科医長
芳賀淳一郎医師

市立病院では、5年前から内視鏡を使った鏡視下手術を積極的に導入し、症例を重ねてきました。この手術は、肺（部分切除）・胃・小腸・大腸・直腸・胆のう・肝臓（部分切除）・脾臓ひぞうの病気や、鼠径そけいヘルニア・気胸・胆石・管内結石などで行っています。珍しいところでは、肛門の病気である直腸脱でも行っています。中でも大腸や鼠径ヘルニアは、ほとんどが鏡視下手術となっています。

鏡視下手術は開腹手術に比べて、創が小さく体への影響が少ないため、術後の回復が早いという利点がありますが、高い技術が求められます。当院は臨床研修指定病院であるため、研修医の修練施設として教育にも力を入れており、この鏡視下手術についても教えています。

この度、「次世代の臨床外科医のための特別セミナー」において、市立病院で行った鏡視下手術について説明し、優良賞を受賞しました。このセミナーは日

本臨床外科学会が主催しており、今年第5回を迎えました。40歳以下の若手医師の学びの場として、年に1度開催されていて、技術力の向上などを目指して、2日間に渡って講演と手術のビデオ発表などが行われます。全国から推薦を受けた鏡視下手術のビデオから、特に教育的、技術的に優れているとして、ヘルニア、胆嚢たんのう、大腸、肺の分野で各2編が採用され、市立病院はヘルニアの分野での受賞となりました。福島県立医科大学からの推薦を受けてセミナーに臨みましたが、市立病院で行っているヘルニア手術が推薦に足ると認められたことは光栄に思います。何より、受賞できたのは、米沢の地に鏡視下手術を根付かせるべく努力してきた結果であると考えています。

これからも、修練を重ねることで技術の向上を図り、レベルを保った上で手術を行い、患者さんの立場に立った治療を目指します。